

2019

社会・環境報告書

SOCIAL AND ENVIRONMENTAL REPORT



皆さまの生活を支えている製品とサービス



粘着剤
用途: ・光学フィルム・両面テープ
・タッチパネル部材 他



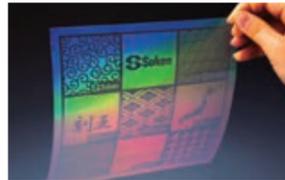
特殊機能材
用途: ・電子基板材料・印刷インキ 他



微粉体
用途: ・光拡散剤・トナー添加剤・化粧品 他



加工製品
用途: ・エレクトロニクス・家電・建築 他



ナノインプリント製品
用途: ・光学素子・自動車用機能性フィルム 他



装置・システム
プラントエンジニアリングを中心に当社グループの生産現場を支えています。

表紙のイラストについて

表紙作品は、障がい者芸術ライブラリーであるアートビリティの登録アーティスト、廣瀬美緒子さんの作品「流れる華」です。

アートビリティとは、障がい者の所得支援を続けてきた社会福祉法人東京コロニーが、アートの分野で力を発揮する人材を後押しし、その才能を収入に結び付けるために始めた事業です。1986年の設立当時から「才能に障害はない」「アートは出番を待っている」を合言葉に、作品の素晴らしさを評価し、正当な対価をもって活用していただき、作品使用料の60%を作家に還元しています。現在は、約200名の作家による約5,000点の作品が揃ったアートライブラリーです。

廣瀬美緒子(ひろせ みおこ)
1973年生まれ。神奈川県在住。
2008年 アートビリティ登録作家となる。
2012年「Artbility meets 10 designers展」出展。

【アーティストのメッセージ】
作品は自己流で、以前は絵に気持ちをぶつけて描いた後は疲れていたが、病歴も長くなり、最近は少し和めて描けるようになってきた。いつも通り何も考えずに描いていきたい気持ちが強い。

お問い合わせ先

綜研化学株式会社
総務人事部、安全・環境・品質保証室

〒171-8531 東京都豊島区高田三丁目29番5号
TEL:03-3983-3171 FAX:03-3988-9216
URL:<http://www.soken-ce.co.jp>

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。



この報告書は、適切に管理された森林から切り出された木を原料とするFSC® 認証紙を使用し、環境に配慮した「植物油インキ」と有害な廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

本報告書に関するご意見ご感想をお聞かせください。皆さまから寄せられたご意見を今後に反映し、さらに内容の充実を図ってまいります。▶ HPのお問い合わせフォームから <http://www.soken-ce.co.jp>

はじめに

当社グループは、事業活動において地球温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めています。同時に企業としての社会的責任を担うべく社会貢献に努め、法令遵守はもとより、内部統制システムを充実させ、社会の公器にふさわしい企業体質を構築しています。

本報告書では、ステークホルダーの皆さまへ、その進捗状況についてご報告するとともに、当社グループの活動をご理解いただくことを目指して、財務報告以外の情報について掲載しています。今後とも、事業活動を通して企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

対象範囲と期間

本報告書は、綜研化学の活動状況を中心に掲載しており、一部グループ会社の取り組みも紹介しています。実績および取り組み内容は、2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日まで)を対象とし、組織・体制などは2019年4月1日現在のものを掲載しています。

ガイドライン

本報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」を参考にしています。

経営理念

- 一、 私たちは常に誠実であるとともに創造と工夫に情熱と責任を持って挑戦しつづけます
- 一、 地球環境の保全を指向しつつ社会に役立つ革新的製品を提供します
- 一、 お客様には心からの満足を株主の方々には共感をそして私たちは働く喜びを実現していくことに最善を尽くします

INDEX

はじめに・経営理念・会社概要.....	02
トップメッセージ・綜研化学グループのご紹介.....	03
特集1：綜研高新材料(南京)有限公司のご紹介.....	04-05
特集2：綜研化学グループの 将来への展望と海外事業展開.....	06-09
経営情報.....	10-11
コーポレート・ガバナンス.....	10-11
社会的側面.....	12-19
株主・投資家の皆さまとともに.....	12
お客様・お取引先の皆さまとともに.....	13
従業員とともに.....	14-17
地域の皆さまとともに.....	18-19
環境的側面.....	20-26
環境負荷低減のために.....	20
環境単年度計画.....	21
環境配慮型製品売上高比率向上の推進.....	22
地球温暖化防止の推進.....	23
化学物質による汚染防止および環境リスクの低減.....	24-25
事業所データ.....	26
グループ会社レポート.....	27

会社概要

社名：綜研化学株式会社
Soken Chemical & Engineering Co., Ltd.
創立：1948年9月2日
所在地：〒171-8531
東京都豊島区高田三丁目29番5号
資本金：33億6,156万円
株式：東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)
(コードNo.4972)
売上高：連結312億円 単体181億円(2019年3月期)
従業員：連結1,046名 単体371名(2019年3月31日現在)

Top Message

2017年度からスタートした中期経営計画「New Value 2019」のもと、当社グループは、中国、東南アジア地域における事業の拡大と将来の核となる新たな事業の創出に努め、さらなる成長をめざしてきました。特に、海外事業展開においては、アジア市場における存在感を高め、アジアにおいて「なくてはならない企業」となることを目指しています。2018年度は、粘着剤を中心に液晶ディスプレイ関連分野での販売が伸び、売上高は2年連続で過去最高を更新することができました。そして、今後も需要拡大が見込まれる中国市場での粘着剤製品のシェア拡大を図るため、綜研高新材料(南京)有限公司の生産能力の増強に取り組んでまいります。

当社グループは、ケミカルズとエンジニアリングを両輪として、お客様の要望にきめ細かく対応することで、付加価値の高い製品を市場に送り出してきました。こうして培ったお客様の信頼に応えるためにも、安全管理体制の整備と環境に配慮した製品づくりに引き続き注力していきます。中国をはじめとしたアジア地域において、安全面や環境負荷の低減のための要求は年々高まりを見せ、規制も厳しくなっています。当社グループとしては、こうした状況をむしろ好機と捉え、環境に配慮した製品の開発によって新たなビジネスチャンスを創出したいと考えています。また、経営理念にある「働く喜び」の実現に向けて、従業員一人ひとりの「働きがい」を重視した組織づくりにも取り組んでまいります。

代表取締役社長

逢坂紀行



綜研化学グループのご紹介



設立8年を迎えて、さらなる飛躍へ。

綜研高新材料(南京)有限公司のご紹介

綜研高新材料(南京)有限公司は、中国における粘着剤事業の拡大を目的として2011年に設立しました。今年で設立8年目を迎え、当社グループを支える会社へと成長しています。



綜研高新材料(南京)の取り組み

現在

綜研高新材料(南京)有限公司は、中国有数の化学工業地域である南京工業園区にいち早く設立されました。上海からほど近く、物流インフラも整備されており、スピーディーにお客様へ製品をお届けしています。

会社概要

社名：綜研高新材料(南京)有限公司
 設立：2011年11月7日
 所在地：中国江蘇省南京市六合区南京化学工業園区崇福路300号
 資本金：27,400千米ドル
 事業内容：粘着剤の製造・販売
 URL：http://www.soken-nj.com/

従業員数の推移



綜研化学の生産技術を中国でも

生産環境が変わっても高品質な製品の安定生産が実現できるよう、綜研化学の生産技術を導入しています。日本からのバックアップや情報共有を積極的に行ない、生産の最適化を実現しています。

日本よりも要求が高い安全・環境対応

中国における化学会社への規制は近年ますます厳しくなり、安全・環境に対する設備投資や教育は日本よりもレベルの高い要求がされています。法規制に関する勉強や情報収集の他に、社内での周知徹底を行なうなど情報を共有し、従業員一丸となって積極的に取り組んでいます。



緊急時に生産現場内の人数を的確に把握するため、ゲートを設置しています。

中国の安全基準に従い、生産設備と操作室を100m以上離れたところに設置しています。

外部機関からの高い評価

綜研高新材料(南京)では国際標準規格である「ISO9001」や「ISO14001」をはじめとして、中国国家機関からも企業活動が評価され、さまざまな認証を受けています。

認証年	認証名
2016年	安全生産標準化2級企業
2017年	ISO9001
2018年	ISO14001
2018年	易製毒4星企業
2018年	南京工業園区内 B企業



安全生産標準化2級企業

語学教育に力をいれています

社内には日本語を話せる社員が多くいます。能力レベルに応じて手当を支給するなど、社内制度を設けて能力開発に取り組んでおり、日本の生産部門や管理部門などとのコミュニケーションがスムーズに行なわれています。

綜研高新材料(南京)の取り組み

これから

これからの当社グループをけん引する原動力として、さらなる発展を目指します。

生産能力を増強してさらなる飛躍へ

中国国内のさらなる需要拡大に対応できるよう、生産能力を増強し、生産・供給体制の強化に取り組んでいます。これにより、中国をはじめとするアジア地域への粘着剤供給体制が一層充実され、当社グループの海外展開をさらに促進させていきます。

いきいきと活躍できる職場作り

充実した教育や制度で従業員のモチベーションがあがる仕組みづくりをしています。従業員満足度調査では、年々満足度が向上し、会社の成長とともに従業員の結束力は高くなっています。これからも、従業員の働きやすい環境づくりを整備していきます。



綜研化学グループの将来への展望と 海外事業展開

「New Value 2019」の最終年度を迎えて

逢坂 皆さん、お疲れ様です。今年度は中期経営計画「New Value 2019」の最終年度にあたるわけですが、現在までの経過をどう評価し、次期中計の策定に向けての課題は何か。まずはそのあたりを、ざっくばらんに話してみたいと思います。

泉浦 トータルの数字を見れば、ほぼクリアできていると思いますが、その中身はどうかと問われると、疑問が残ります。私が担当してきた管理部門の役割としては、事業が拡大していくための基盤を築くことだと考えていますが、そのための管理体制にはまだ足りないところがあると感じています。管理される側の意識が高まり、誰かに管理されていると感じさせないような組織全体のレベルアップがこれからも求められるのだと思います。

佐藤 今回の中計は、既存事業の強化、海外事業の積極的な推進、さらに新規事業の見通しをつけるという、この3点を戦略的に進めていくものだと思います。私はこのうち、海外展開と研究開発に関わっています。まず海外展開については、いかに黒字幅を拡大できるかに注力し、ある程度の結果が残せ

ています。そして研究開発では、ナノインプリント、導電性材料などの電子材料の開発を推進し、また脱ピッチ装置やCDドライヤーといった環境対応設備の開発を進めました。これらの完成度をさらに高めるとともに、将来の柱となる新たな材料の検討も進めたいと考えています。

福田 私が主に見ている樹脂事業では、今回の中計に入る前から、課題となっていたシェアの低い分野に注力し、相応の実績を残すことができました。ただ外的要因などで遅れたところは、これから詰めていかなければなりません。また、市場のさらなる分析によって、どこに綜研化学の強みが発揮できる分野があるのかを見定め、そこに注力していくことが、これからの課題になると思います。

御手洗 綜研化学の主力製品である粘着剤の事業は、ニッチな領域のなかでお客様のニーズを捉えカスタマイズしながら、多品種少量生産を続けてきました。我々のような研究開発主体の会社にとっては好都合な環境のなかで、粘着剤事業では他に追従を許さない領域へと進化することができています。課題

といえば、将来の柱となる新たな事業を、どう育てていくかということでしょうね。そのために泉浦取締役が言うように、成長基盤となる組織体制の見直しも必要でしょうし、佐藤取締役が取り組んでいる新たな材料の開発にも活路を求めたいところです。**逢坂** ある程度の実績が残せたものの、狙い通りの内容を伴っているかという、実際には苦しんでいるところもあるということです。研究開発では、まだ芽が出てこないところもありますし、中国市場の浮き沈みもあって、右肩上がりの成長軌道を描ききれてはいません。ただここ数年は、営業も開発も、製造もそうですが、担当レベルが多くの経験や勉強を重ね、難題に立ち向かっていく本当の意味での地力がついてきたと思っています。皆さんの話を聞くと、多くの課題が顕在化していて、今後、何をやればいいのか具体的に見えてきています。課題があるということは伸びしろがあるということです。そういう意味で、まだまだ成長の余地があると感じました。

アジア市場で存在感を示すために

福田 伸びしろということ言えば、国内の市場環境がますます厳しさを増すなかで、いま海外市場での売上が半分以上を占めるようになってきています。今後は、さらに海外に軸足を置いて事業を推進していくことになりまますから、次のテーマとしては、当社グループの中国、東南アジアを中心としたアジアへの展開について話したいと思います。中国で、最初に生産拠点を立ち上げたのが寧波綜研化学でした。1994年の設立で、現在もテープ製品などの加工製品を製造、販売しています。

御手洗 当時、粘着剤のお客様のほとんどが、日本国内で加工品をつくり販売していました。私たちが付加価値の高いテープ製品などに手を出したかったのですが、それでは国内のお客様とバッティングしてしまいます。そこで中国市場に向けて加工製品をつくらせて販売することを目的に現地で操業をはじめたわけです。加工製品を扱う会社が中国に進出する前のことで、当初、寧波綜研化学のお客様のほとんどが、中国の現地企業でした。

綜研化学グループの将来への展望と海外事業展開をテーマとする特別座談会を開催しました。参加していただいた5名の取締役には、来たるべき未来に向けた想いを語っていただきました。それぞれの飾ることのない、情熱にあふれた言葉のなかに、綜研化学グループの未来を感じてとっていただきたいと思います。



佐藤 そうして共創してきた中国のお客様が、いまでは世界規模のビジネスを動かしています。国内のコスト高から逃れるためではなく、相手国が必要とする製品、技術を共に創り上げていくのが当社グループの海外事業展開の大前提。その思いがかたちになって互いに成長できているのは嬉しいことです。その後、2002年に綜研化学(蘇州)を設立。さらに綜研化学アジアをタイに設立(2008年)し、いよいよ福田副社長の出番となります。



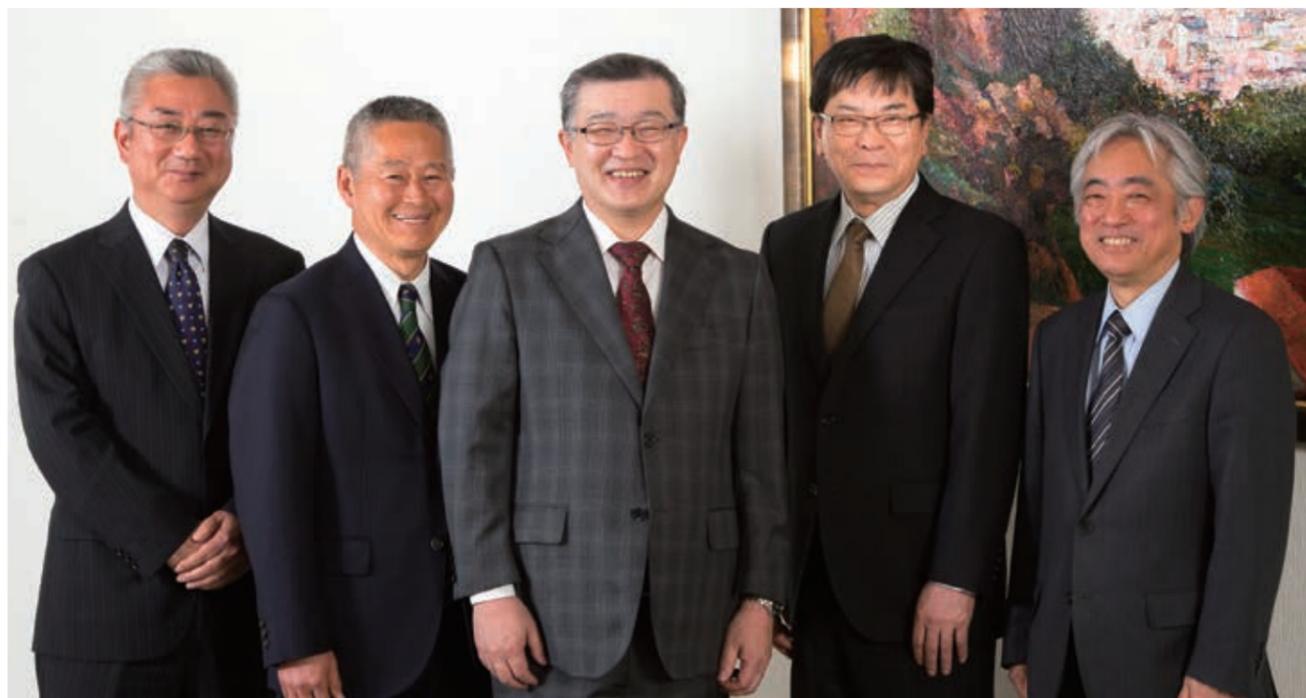
福田 綜研高新材料(南京)の設立は2011年。私は2012年から南京での工場建設に携わってきました。

お客様はすでに現地に液晶パネルの工場をつくらせていて、綜研高新材料(南京)の粘着剤の供給を待つ状況になっていました。ところが、中国では環境規制が厳しさを増し、工場の完成までに時間を要しました。しかしこの間、中国のお客様に日本から粘着剤を供給することで、採用の実績を残しました。そして、綜研高新材料(南京)で粘着剤の製造をはじめたからは、日本品から切り替える作業を行ない、原料の違いなどで苦労



はありましたが、いま大きく道が開きはじめているという状況です。

泉浦 設立当初、製造要員の定着率がよくなかったのですが、ここにきて定着率が改善しているとのこと。おそらく工場での生産が軌道に乗り、製品がきちんと出荷されるのを見て、手応えを感じられるようになったためだ



座談会参加者 (左から) 代表取締役副社長 福田純一郎/常務取締役 御手洗寿雄/代表取締役社長 逢坂紀行/取締役 佐藤雅裕/取締役 泉浦伸行 ※役職名は2019年4月時点

と思います。こうして定着率が改善すれば、安全面の教育などでも成果があらわれて、生産性を向上させるステップに入っていけます。そういう期待が高まっています。

逢坂 思えば、粘着剤の生産を中国で手がけることは、20年来の悲願でした。現地にしっかりと根をおろし、中国でのビジネスを支えていくのは綜研高新材料(南京)になるだろうと期待しています。

福田 偏光板の加工を行なうお客様も、日本や韓国、台湾での生産を徐々に中国にシフトしてきていて、最終のパネル生産まで行なうようになってきています。そうした動きを見越して、いままさに、次の設備投資計画を進めているところです。

アジアから世界へ、今後の海外事業展開

福田 今後の海外事業展開については、これまで同様に地産地消でやっていくということが基本です。それぞれの地域のお客様が抱える課題と真摯に向き合い、求められる製品や技術を提供することで、お客様の願いをかなえることが重要だと考えています。新たなエリア開拓ということで、いま着目しているのはインドですね。当社グループがまったく入り込んでいないエリアですので、数年前からリサーチをはじめ、現地で粘着剤をつくる可能性について検討してきました。現地をまわるなかでマーケットの全体像をつかめるようになってきましたし、粘着剤を販売できるお客様の見通しもつきました。現在は、現地の商習慣を学びながら、どんな製品が受け入れられるのかという検討をはじめたところです。同時に、現地法人の設立を、現地企業と組んで行なうなどの対応についても検討しています。

泉浦 いまの中計では「アジアのなかでの存在感」という言葉であらわしていますが、その先には「世界全域へ」と視野を広げていくことが必要だと思います。当社グループの製品の特長から、それを必要とする地域は、世界に広がっていくと思っています。

佐藤 当社グループはこれまで、多くのユーザーの期待や要望に応えるかたちで、付加価値を高めた高機能な製品を提供してきました。それは強みである一方、ハイスペックであること



特集2

特別
座談会

綜研化学グループの将来への展望と海外事業展開

が使いにくく、ユーザーや市場を限定することにもなる。ですから、そういう私たちの製品を使っていただけるお客様を、世界に目を向けて探索する必要があるわけです。

御手洗 30年前は、私たちが提供するハイスペックな製品が売れるのは、日本市場だけだと思っていました。それがいままさらずアジアへ、世界へと広がりはじめています。このことを好機と捉えるべきでしょうね。また、いままでは自前主義で、自力で海外進出を果たしてきましたが、そろそろ現地企業とのタイアップなどの選択肢も含めて検討すべき段階にあるのだろうと考えています。

逢坂 地理的な問題もあるでしょうし、マネジメントのあり方も考えていかなければなりません。これまでと同じようなやり方でもいいのかというと、決してそうではありません。それぞれの地域やお客様に合わせた、最適な選択肢を考慮しなければいけませんね。最後に、綜研化学グループの未来、10年後、そして100周年を迎える30年後には、社会のなかでどんな役割を果たす企業グループになっていくべきかについて話をしましょう。

その先の、未来を見据えて

御手洗 私たちの主力製品である粘着剤では、本当に必要な樹脂と実際には使われない溶剤とをセットでお客様に提供しています。この揮発して使われない溶剤の部分を、うまくコントロールして環境負荷を減らしていくことを、お客様と一緒にやっていかなければならないと考えています。非常に難易度の高いテーマとなりますが、環境に対して私たちができることを考えるときに、常に意識しなければならない課題だと思います。

佐藤 私が感じているのは、アジア進出の付帯効果として、従業員の国際感覚が磨かれていることです。当初は関連する事業部の一部の人だけしか海外に興味を示しませんでした。現在では管理部門や生産部門も含めて海外支援を積極的に行ない、多くの社員の意識が海外に向けられています。今後、海外シフトがより鮮明になるにつれ、国際社会で通用する人材になっていってほしいですね。

泉浦 30年後に何をやっているのかについて、私として明確な答えを用意することはできません。しか

し企業として、そこで働く人たちが幸せを感じられる組織であってほしいと願っています。この会社のなかで働く人たちが幸せを感じられなければ、その人たちが



がつくったものを受け取る人たちが幸せを感じることはないでしょう。そして、やがては私たちの製品も受け入れてもらえなくなると思うんです。そうならないためにも、自分が幸せになるために何をすべきかを考えて行動してもらいたいですし、その大前提として、自分自身と家族の健康を維持すること、そこには絶えず目を向けておいてほしいと、国内、海外を問わず、すべての従業員に言いたいです。

福田 30年後の未来を語るという、どのようにかたちを変えて進化していくのかという方向に、話が向きがちですが、変わらないこと、守り続けていくべきこともあると思います。当社グループがお客様に中間材を提供していくことは30年経っても変わりません。ならば、お客様に寄り添い、お客様が何を望まれているのかを第一に考えて行動する姿勢も変えてはいいはず。「小なりとも最優の会社となって社会に貢献しよう」という精神をDNAとして受け継ぎ、新しい地域へ、新しい事業へと活躍のフィールドを広げていきたいです。そのために研究開発の成果にも期待していますし、社内には希望する職務を申告する制度もあるので、部署の壁を飛び越えて活躍する人材を応援したいと思います。

逢坂 私が会社に入って35年になりますが、当時は何の素地もなかった新しいものが生まれてきているかという、決してそうではない。私たちを取り巻く小さな変化を捉えて、それまでのやり方を変えてみたり、地域を変えたりすることで、新しい機軸が見えてきました。そして今後も、いくつもの大きな環境の変化を経験することになると思いますが、それに拒絶反応を示すのではなく、柔軟に受け止めて対応することが、当社グループの未来を築くことになると考えています。

まだまだ言い足りないことが多いと思いますが、続きは、皆さんがそれぞれ現場に出て、社員たちと語り合ってもらえたらと思います。本日はお疲れさまでした。



コーポレート・ガバナンス

ここがポイント!

- ✓ 取締役会実効性評価を実施
- ✓ インサイダー教育を徹底 (全従業員向け勉強会実施)
- ✓ リスク管理体制を強化 (管理体制見直し・定期的なリスク評価実施等)
- ✓ 内部通報体制の見直しを実施

当社グループは、適切な企業統治の推進・徹底を図ることにより、企業としての社会的責任を果たし、関係する皆さまから信頼していただけるよう努めていくことを基本方針とし、実効性の高いガバナンス体制の整備・充実に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制

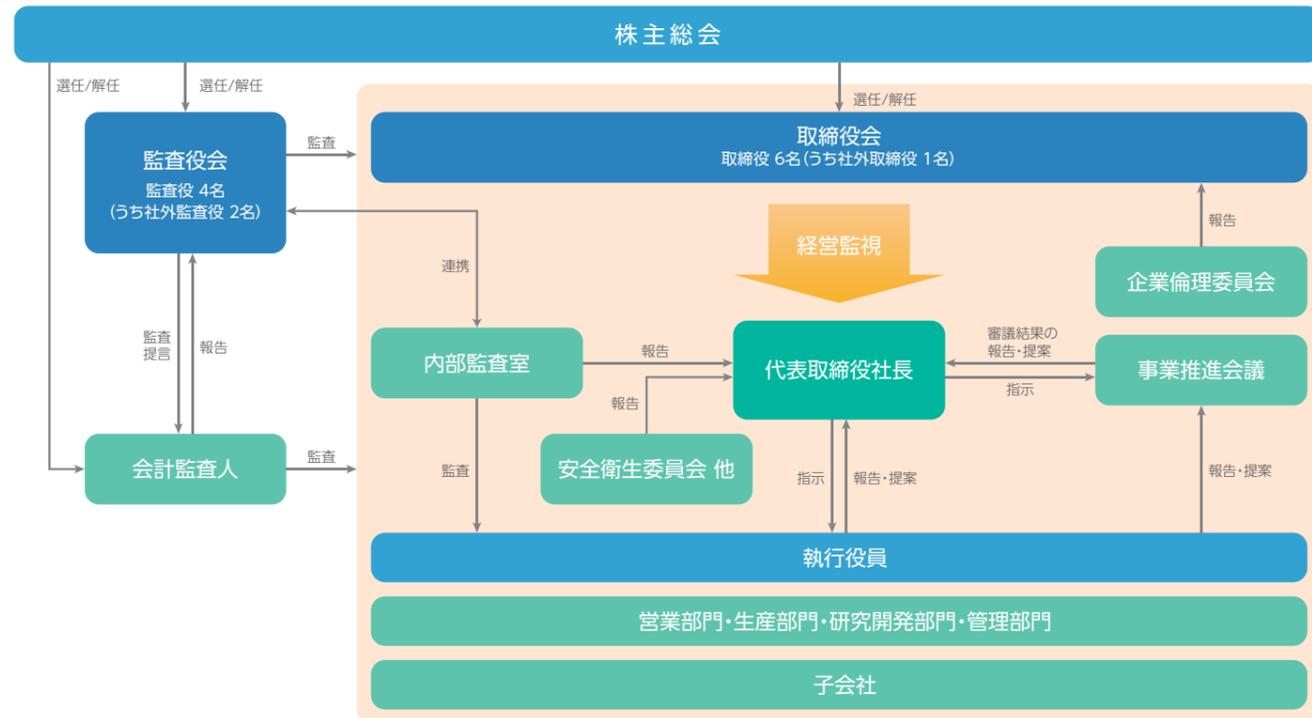
綜研化学は、監査役制度を採用しており、取締役会および監査役会による取締役の職務執行の監督および監査を行っています。また、業務執行につきましては、執行役員制度を導入し、取締役による経営の意思決定および監督機能と執行役員による業務執行機能を分離することで、経営の透明性・公平性を高めるとともに、業務執行の迅速性・効率性を確保しています。

【取締役会】

取締役会は、月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催しており、法令で定められた事項および経営上の重要な事項の意思決定ならびに業務執行状況の報告が行なわれ、業務執行を監督しています。

【監査役会】

各監査役は、取締役会等の重要会議に出席し、適宜意見を述べています。また、取締役・執行役員等との面談や子会社往査、内部監査室および会計監査人との情報・意見交換などを通じて、月1回定時に開催する監査役会で、取締役の職務執行や内部統制の状況を確認しています。



【実効性評価】

綜研化学では、2018年度に各取締役・監査役に対して実効性に関するアンケートを実施し、取締役会の実効性について分析・評価を行いました。その結果で認識された課題は、取締役会にて議論され、改善に取り組んでいます。

内部統制システム

当社グループは、取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を決議し、業務の適正を確保するための体制の整備・運用を進めるとともに、その進展や状況に応じて、必要な改定を行なっています。

取り組み項目

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に関する情報の保存および管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行なわれていることを確保するための体制
5. 当社およびその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 財務報告の信頼性を確保するための体制
7. 監査役の適正監査を確保するための体制
8. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および使用人の取締役からの独立性に関する事項
9. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその体制整備状況

リスクマネジメント

当社グループの経営に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスクについて、適切な管理体制を整備するとともに、その運用・評価・改善に努めています。重大リスクの抽出・管理方法を見直し、経営環境の変化やリスクの多様化に適切かつ柔軟に対応するための管理体制を整えました。



コンプライアンス

綜研化学倫理綱領を法令遵守体制の基礎として、さまざまな取り組みを実施し、コンプライアンスの推進を図っています。

【綜研化学倫理綱領】

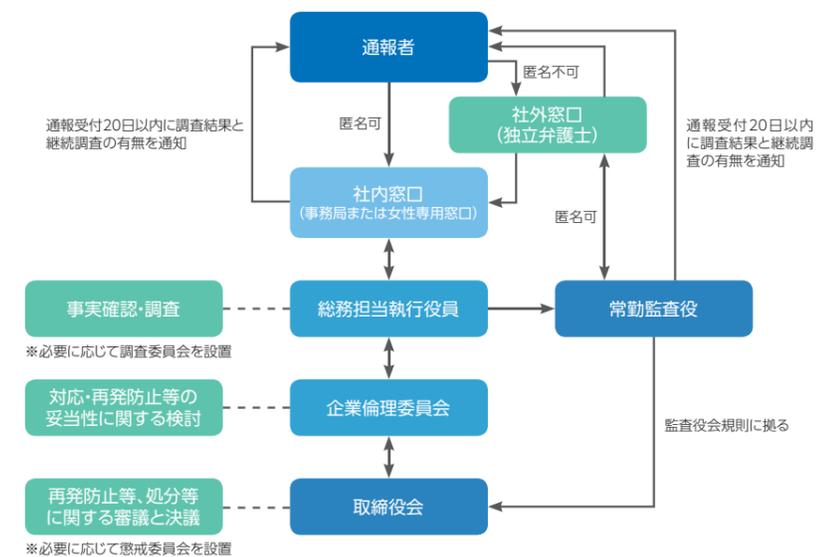
1. 法令を遵守し、社会的規範や良識に基づいて行動する。
2. 人格・人権を尊重し、不当な差別を排除する。
3. 国内外を問わず、その土地の文化や慣習を尊重し、地域との共存共栄に努める。
4. 安全確保と地球環境保全に積極的に取り組む。
5. あらゆる反社会的勢力からの不法・不当な要求には応じず、一切の関係を遮断する。

【企業倫理委員会】

日常的な法令遵守状況のチェックや改善のための提言を行ない、その状況を取締役会に報告しています。また、従業員を対象に企業倫理に関するディスカッションを企画・実施することにより、従業員の企業倫理および法令遵守に対する意識向上を図っています。

【内部通報制度】

従業員が法令、倫理綱領、諸規定等に反する不適切な行動を見かけた場合、社内外に相談窓口を設けております。2018年度は、経営層に対する中立性・公平性を担保するため、社外窓口を独立弁護士に変更しました。



株主・投資家の皆さまとともに



ここがポイント!

- ✓ さまざまなツールで経営情報を発信
- ✓ 2018年度の利益配当金は55円

当社グループは、経営理念に「株主の皆さまからの共感」を実現していくことを定め、適時適切な企業情報開示で、信頼性と透明性の保持に努めています。

IR活動

経営の透明性を高め、企業としての説明責任を果たすため、各種IR活動や情報開示ツールを通じて株主・投資家の皆さまに情報をお届けしています。

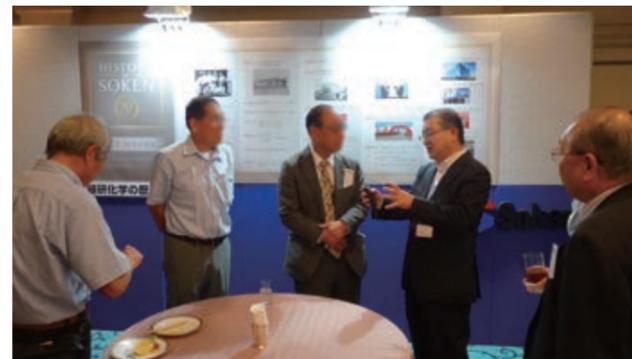
【ビジネスレポート】

中間、期末の年2回、事業活動の概況をお届けしています。



【株主懇談会】

毎年定時株主総会后に、当社グループの技術や製品を身近に感じていただけるよう、株主の皆さまとの懇談の場を設け、さまざまなご質問にもその場でお答えし、交流を深めています。



【決算説明会】

中間、期末の決算発表後に機関投資家、証券アナリストの皆さまを対象に説明会を開催しています。



【FACTBOOK】

投資分析に必要な情報を掲載しています。



利益配分に関する基本方針

綜研化学は、株主の皆さまに対する利益還元を重要政策の一つと考え、事業拡大や技術革新に対応した設備・研究開発投資による収益性の向上、財務体質の強化を図りながら、配当水準の向上と安定化に努めることを基本方針としています。2018年度の利益配当金につきましては、同期の業績結果および今後の事業展開、設備投資等の資金需要、内部留保の水準など総合的に勘案し、1株当たり55円(普通配当)としました。

配当金の推移 (単位:円)



※2017年度は、特別配当10円と70周年記念配当10円を含む

お客様・お取引先の皆さまとともに



ここがポイント!

- ✓ 寧波綜研化学と合同で展示会に出展
- ✓ 購買方針をもとにお取引先の皆さまと公正公平な取引を実施

当社グループは、お客様・お取引先の皆さまとの信頼関係を大切にし、お客様にとっての「一番身近な存在」であり続けたいと考えています。また、お取引先の皆さまとは、「相互発展に向けた良い関係」を築いていけるよう努めています。

お客様へ確かな信頼をお届けするために

お客様の期待に応える魅力ある製品とサービスの提供を実現するため、品質管理の徹底やコミュニケーション強化に取り組んでいます。

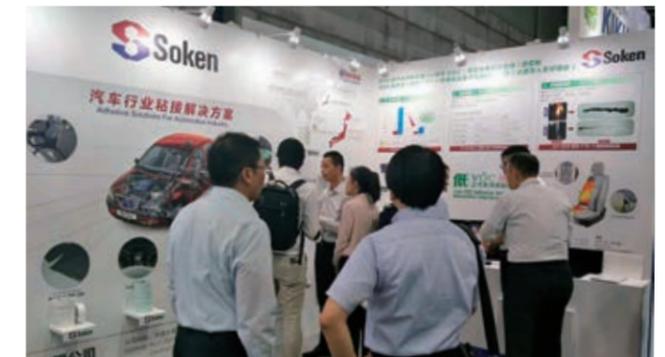
【ISO9001認証取得状況】

当社グループでは、国内の生産拠点(ケミカルズ部門)においてISO9001の認証を取得しており、品質マネジメントシステムの構築と継続的な改善を行なっています。



【展示会へ出展】

新製品・技術の紹介や、既存製品の機能拡大などのPRを中心に、展示会へ積極的に出展しています。2018年度はグループ会社である寧波綜研化学と合同で展示会に出展しました。



オートモーティブワールド

お取引先の皆さまとのパートナーシップ

お取引先の皆さまとは公正公平な取引のもと、お客様に製品を安定して供給するため、購買方針に則り、良きパートナーとして信頼構築に努めています。

【購買方針】

■公正公平

国内外のサプライヤーの皆さまに対して、過去の実績の有無に捉われず、品質・価格・納期・サービスに加え、経営安定性についても公正かつ公平な評価・選定を行います。

■法令遵守

弊社が国内外の法令、社会規範を遵守し、社会に貢献する製品を提供しつづけるために、製品やサービスをご提供いただくサプライヤーの皆さまにも法令遵守を求めます。

■パートナーシップ

サプライヤーの皆さまとの信頼関係とご協力のもとに、相互の持続的発展を目指した取組みを行い、win-winのパートナーシップを目指します。

■環境配慮

「綜研化学グリーン調達・品質保証指針」に基づき、地球環境保全に配慮した環境負荷低減製品の購買を実践し、サプライヤーの皆さまにも同指針へのご協力を求めます。

従業員とともに

- ここがポイント!**
- ✓ 時間外労働時間を個人別に公表し、労働時間管理意識を強化
 - ✓ 女性活躍推進法に基づく優良企業認定「えるぼし(認定段階2)」を取得

当社グループは、経営理念に定める「働く喜び」を実現するため、全従業員が働きやすい職場環境の実現を目指して、さまざまな支援制度を設けています。

従業員の健康と安全のために

全ての従業員が心身ともに良いコンディションで働くために、健康づくりをサポートする体制を整えています。

【ストレスチェックと国内全事業所でのカウンセリング】

当社グループでは法令に先んじて2012年からストレスチェックを年に1回実施しています。また、全事業所に専門のカウンセラーを配置し、従業員の心の健康をサポートしています。

【中堅社員のためのレジリエンス・トレーニングセミナー】

中堅社員に向けたレジリエンス・トレーニングセミナーを開催し、心と体の健康に関する知識を深めています。2018年度は狭山事業所で開催し、トラブルやストレスに適応する心理プロセスや自身の強みを活かして行動するスキルを身につけるなど、課題対応能力の向上をサポートしています。

安全衛生管理体制

従業員が安全で快適な環境で働ける体制を整えています。

【防災訓練】

各事業所では地域の皆さまや従業員の安全を確保するため、防災対策に積極的に取り組んでいます。各事業所で行なわれている防災訓練には全ての従業員が参加し、防災意識を高めています。



狭山事業所

浜岡事業所

【インフルエンザ予防接種】

社内でのインフルエンザ感染を防ぐために、インフルエンザの予防接種を推奨しています。2018年度も各事業所で集団接種を行ない、多くの社員が受けました。また、従業員が病院で予防接種を受けた場合は、会社が費用の全額を負担しています。インフルエンザにかかった場合にも、特別休暇(有給)が付与されるなど、従業員の体調回復や他の従業員への感染を防ぐ制度を設けています。

障がいのある従業員が活躍できる職場づくり

障がい者雇用は、企業の社会的責任を果たすことはもとより、さまざまな個性や制約条件のある人がともに働ける職場を目指す取り組みです。2018年度は全ての部署を対象に、障がい者雇用促進に向けた取り組みを展開しました。今後も障がい者雇用に対する理解促進と計画的な採用活動に取り組んでいきます。

人事担当者よりひと言

この取り組みへの理解促進のために、全部署長を対象に、説明会を実施し、他社事例や、仕事の切出し方のポイントなどを紹介しました。また、実際に障がいのある方を受け入れる職場では、就労支援機関のアドバイスを参考に、作業マニュアルや1日の作業スケジュールなどを留意し、お互いに仕事がスムーズにできる体制を整えました。採用後も何かあれば、その都度解決策を見つけて、定着に向けて取り組んでいます。大変な面もありますが、普段の仕事を見直すきっかけや他部署の仕事を知る機会にもなります。今後も全従業員が気持ちよく働ける職場づくりに取り組んでいきます。



管理本部 総務人事部 人事G長 中村 律子

人材育成制度

全ての従業員が活き活きと働き成長できるよう、さまざまな人材育成制度を導入し、従業員の能力開発を応援しています。

【各種研修制度】

新入社員研修や階層別研修など、さまざまな研修を行なっています。

階層別研修体系図

幹部職	部門長研修
	グループ長研修
	新任幹部職研修
中堅社員	初級幹部職前研修
	上級一般職研修
	中堅社員研修
	コミュニケーション研修
新入社員	ベーシックビジネススキル研修
	新入社員研修



新入社員研修(異文化研修)

国籍や文化の違う新入社員同士がお互いに理解を深め、コミュニケーションスキル習得やグローバル意識の向上を目的としています。



中国語講座

語学の自己啓発をサポートするために外部講師を招いた「中国語講座」を行なっています。

【ブラザー・シスター制度】

社会人1年目をサポートするため、先輩社員をブラザー・シスターとして任命し、相談に乗ったりアドバイスを行なったりしています。



ブラザーを担当して、自分が入社した時のどのような不安を抱いて作業を教わっていたかを意識して、後輩にアドバイスをするようにしました。人によって悩みを感じる場所は違うため、苦戦しましたが、この制度を利用してコミュニケーションを取ることによって、悩みを解消することができたと思います。

(左)樹脂生産本部 樹脂製造部 浜岡工場 浜岡製造1G 2T 落合 皓大

配属した時は不安や戸惑いばかりでしたが、このブラザー・シスター制度を利用してチームの人と食事に行ったりすることで、職場に早く馴染むことができ、仕事でわからないことやプライベートで困っていることを気軽に話せるようになりました。落合さんのように、先輩からも後輩からもらったような存在になりたいと思います。

(右)樹脂生産本部 樹脂製造部 浜岡工場 浜岡製造1G 2T 植田 歩夢

従業員とともに

ワークライフバランスの推進

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)の実現を目指し、総労働時間の削減や、育児・介護支援制度の拡充など、従業員が働きやすい環境づくりに努めています。

【次世代育成支援】

全ての従業員にとって働きやすい環境をつくるため、厚生労働省が定める次世代育成支援対策推進法に基づいて行動計画を策定し、目標達成に向けてさまざまな取り組みを行なっています。

行動計画(第4期) (2018年4月1日~2020年3月31日)

目標①	<ul style="list-style-type: none"> ●育児・介護を中心としたライフイベントに備えるための知識習得の機会を設ける ●子を持つ社員、要介護者を持つ社員が働きやすい職場環境を作る
対策	<ul style="list-style-type: none"> ①育児・介護に関する両立支援制度の周知 ②男性従業員の育児休業取得促進 ③管理職向けの育児・介護取得者への対応をまとめた資料作成、周知
目標②	<ul style="list-style-type: none"> ●恒常的な長時間労働が見られる部署への働きかけを行なう
対策	<ul style="list-style-type: none"> ①残業時間、有給取得日数の部署別・個人別データの作成・公開、管理職への働きかけ ②定時退社日(月2回)実施 ③長時間労働の部門へのヒアリング実施 ④管理職の労働時間可視化のための就業システム構築、運用

【管理職向け各種休業制度対応資料を配布】

部下が仕事と家庭の両立をサポートできるよう、育児や介護休業を取得する部下への対応方法をまとめた資料を作成し、管理職向けに配布しました。職場をマネジメントする管理職の知識を深め、安心して働き続けられる職場環境づくりを促進していきます。

【時間外労働の削減への取り組み】

従業員一人ひとりが労働時間を意識・管理できるように、時間外労働時間を個人別に公表しています。また、長時間労働が多い部署と個人に対しては、実情の把握から改善策の実行までを外部機関などを活用してその削減を図っています。

【月2回ノー残業デー(定時退社)を実施】

2012年から月2回、部署ごとにノー残業デーを設定して労働時間短縮に取り組んできました。2019年4月からは月4回の実施に変更し、さらなる業務効率化と働き方の見直しを推進しています。

【仕事と介護の両立支援】

仕事と介護の両立についての理解を深めてもらうため、継続的に介護セミナーを開催するほか、介護休暇や介護短時間勤務などさまざまな制度を整備し、介護離職ゼロを目標に取り組んでいます。



介護セミナー

育児休業取得者の声

2017年2月に長女を出産し、2018年4月に復職しました。主人も育児休業を取得し、夫婦で子供のそばにいらることができました。社内外の手続きは人事担当者が代行してくれるので休業中は安心して育児に専念できました。現在は育児短時間勤務制度を利用して働いています。復職しても急な早退や休みを取ることもありますが、職場の方々のサポートが心強く、本当に感謝しています。

粘着・機能樹脂事業本部 粘着・機能樹脂部 技術G 試作T 池上 美穂

育児休業取得者の声

営業職という社外対応がある役割の中で、育児休業制度を取らせていただき、周りの方々の協力に感謝しております。そのおかげで、少しでも長く家族と接する時間が持て、子供の成長を間近で見ることができました。

粘着・機能樹脂事業本部 粘着・機能樹脂部 粘着剤営業G 永岡 裕之

【女性活躍推進】

ライフイベントとキャリアの両立に課題をもつ女性従業員を含む全ての従業員を支えるため、女性活躍推進法に基づく行動計画を策定し、目標達成に向けてさまざまな取り組みを行なっています。

行動計画(第2期) (2018年4月1日~2020年3月31日)

目標	<ul style="list-style-type: none"> ●2021年に、管理職に占める女性の割合を10%以上とすることを目標とする
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①社員のおかれている環境・背景・価値観の多様性に対応できるマネジメント研修を実施する ②社員の健康増進に取り組み、業務効率化と長期就業継続を図る ③育児・介護を中心としたライフイベントに備えるための知識習得の機会を設ける ④恒常的な長時間労働が見られる部署への働きかけを行なう

【えるぼし(認定段階2)を取得】

女性活躍推進法に基づく優良企業として厚生労働大臣より「えるぼし(2段階)」の認定を受けました。これは、女性活躍推進に関する取り組みの行動計画の策定・届出を行なった企業に対し、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多彩なキャリアコース」の5つの評価項目のうち、基準を満たす項目数に応じて3段階で認定されます。今後、最高位を目指すとともに、女性だけでなく全ての従業員が能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいきます。



育児休業取得者数

		性別	
		男性	女性
2018年度	取得者	3人	2人
	取得率	42.9%	100%
2017年度	取得者	1人	4人
	取得率	6.2%	100%
2016年度	取得者	1人	9人
	取得率	5.9%	88.8%

男女別新卒採用者数(人)

	男性	女性
2018年度	11人	4人
2017年度	7人	4人
2016年度	9人	3人

3年以内男性採用割合:71.1%
3年以内女性採用割合:28.9%

【女性管理職候補者のキャリア開発】

女性の管理職候補者のキャリア意識を早い段階から育成し、さらに上位層へステップアップするための知識やスキルを学ぶ機会として、2018年度初めて経団連の「女性チャレンジ支援セミナー」へ派遣しました。

研修受講者の声

女性チャレンジセミナーを受講しました。違う業種で活躍している先輩方や同じような立場の方の話を聞くことができ、自由に交流ができる良い機会でした。なぜ女性が活躍していかなければならないのかということや、チャレンジに必要な意識など、自分のキャリアを振り返りながら学ぶ講座でした。自分の強み・弱みが整理され、今後の「自分の働き方」を深く考えるきっかけになりました。

品質保証本部 品質管理部 狭山品質管理G 粉体品質T 石塚 貴子

【育児休業取得者の復職率】

育児休業取得者の復職率は2018年度も100%となり、復職後もさまざまな制度で仕事と家庭の両立をサポートしています。

- 育児短時間勤務:3歳に満たない子を養育する従業員は、1日の勤務時間を6時間に短縮できます。
- 看護休暇:法律より対象期間が長く、小学校卒業前の子を扶養する従業員は、半日単位で休暇が認められます。

地域の皆さまとともに

- 👍 **ここがポイント!**
- ✓ 地域のボランティアにも積極的に参加
 - ✓ 中学生職場体験学習の受け入れ、インターンシップ4名を受け入れ

当社グループは、社会的責任を果たすための社会貢献と事業所が所在する地域との積極的な交流に努め、社会との共生を図るため、さまざまな活動を行なっています。

地域交流・ボランティア活動

地域交流を兼ねたボランティア活動やイベントに積極的に参加しています。



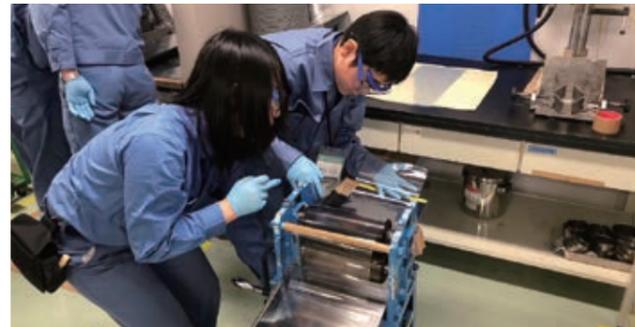
めだかをこども園に提供(御前崎市)

国道150号線環境美化活動(御前崎市)

入間川七塔まつりクリーンボランティア(狭山市)

中学生職場体験学習の受け入れ

綜研化学の事業内容を理解してもらうとともに、自身の将来について考えるきっかけとして、狭山事業所にて狭山市立西中学校からの職場体験学習を受け入れました。中学生3名は3日間で物流・研究・検査部門の体験を経て、「粘着力を測ったりして楽しかったです。」「顕微鏡で観察したことがとても良い経験になりました。」などの感想をいただきました。



指導社員よりひと言

研究部門では、粘着剤の用途に関する勉強、フラスコ重合の見学、粘着剤の塗工及び評価を体験してもらいました。3人とも好奇心が旺盛で、評価に使った粘着テープを手で触り比べてみるなど、こちらの想定以上に実験を楽しんでいました。BtoB企業である綜研化学は、彼らにとって余り馴染みのない会社だったと思いますが、これをきっかけにさまざまな企業や業種があり、この社会を支えている事に気付いて貰えれば幸いです。

粘着・機能樹脂事業本部 粘着・機能樹脂部 機能材営業G 吉川みどり



地域の皆さまとの共生

【狭山事業所】

狭山事業所では、近隣の皆さまが大規模地震・大型台風・竜巻等の天災により住居被害を受け、避難が必要となるケースが生じた場合を想定し、建物の一部を避難所として提供できるよう整備するほか、防火用水の提供などもできるように整備しています。

【浜岡事業所】

浜岡事業所では、御前崎市および近隣の牧之原市の消防団協力事業所認定を受けており、緊急時には、消防団所属の従業員は、地元消防活動を優先できるようにしています。

インターンシップの受け入れ

当社での就業体験を通して、社会や仕事について理解を深めるとともに、自身のキャリアについて考える機会としていただくため、インターンシップを受け入れています。2018年度は4人の学生を受け入れ、外国の方にも体験していただきました。

インターンシップ生よりひと言

私は素晴らしい人々と一緒に働き、多くの新しい知識を学ぶことができとても幸せでした。私の日本語はあまり上手くありませんが、皆さんとても親切で、私の質問に対し、説明するために全力を尽くしてくれました。この機会を与えてくださりありがとうございました。



Ng Jes Minさん

指導社員よりひと言



ナノインプリント技術を使用した末端製品の作製を担当してもらいました。熱心に興味を持って取り組んでいて、飲み込みがとても早かったです。慣れない環境での仕事でしたが粘り強く作業してくれました。私にとっても、他の国の文化を教えられる貴重な機会となりました。今後のご活躍をお祈りしています。

加工製品事業本部 NIP・加工製品部 NIP製品開発G 山中 美里

学生向け事業所見学会

大学や高校の授業の一環として、また化学産業への理解と興味を深めてもらうため、学生の事業所見学を受け入れています。2018年度は、狭山事業所にて17件の事業所見学会を実施しました。

プロバスケットチームのオフィシャルスポンサー契約

綜研化学創立70周年を記念して、プロバスケットボールチーム「東京八王子ビートルズ」とオフィシャルスポンサー契約を結びました。当社グループは長年、多摩地域およびこれに連なる神奈川中央部、埼玉県南西部を含めた広域多摩地域(TAMA)と深いつながりがあり、この地域の活性化を目的の一つとして協賛しています。



コート脇の看板にロゴを掲出

環境負荷低減のために

ここがポイント!

- ✓ 環境管理委員会による環境活動推進状況の監視および支援の強化
- ✓ 環境マネジメントシステムの理解を深めるため、環境内部監査員の資格取得推進

当社グループは、経営理念に「環境保全を指向しつつ社会に役立つ革新的製品を提供すること」を定め、以下に示す環境方針に則り、自主的、積極的に環境負荷低減を目指した企業活動に取り組んでいます。

環境方針

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企業として、粘着剤、微粉体、特殊機能材等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品及び装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境に配慮した企業活動を行い、環境保護に努め、社会に貢献します。

【基本方針】

1. 全員参加のもとに環境保護活動(汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性及び生態系の保護)を進め、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善と汚染の予防に努めます。
2. 関連する法令等の要求事項の遵守義務を満たすとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

【行動指針】

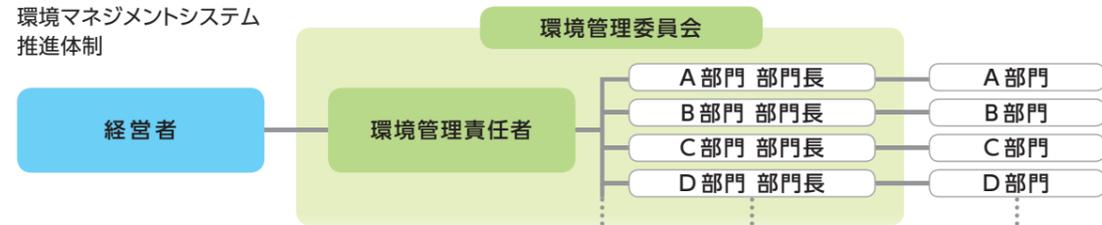
1. 事業活動や製品が環境に与える影響を評価し、環境改善の目的及び目標の設定と、見直しを含め環境改善を進めます。
2. 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R(リデュース、リユース、リサイクル)による「資源の循環」に取り組みます。
3. 化学物質による汚染の予防など、環境リスクの低減に努めます。
4. 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2017年3月6日 綜研化学株式会社

環境マネジメントシステムの推進体制

環境マネジメントシステム全体の管理は、経営者である社長から任命された環境管理責任者が担い、各職制の長が全体方針に則り、それぞれ活動の方向性を定め、環境管理活動を展開しています。

環境マネジメントシステム推進体制



環境マネジメントシステムの認証

ISO14001の2015年版への規格改訂に合わせ、2017年度より環境マニュアル等の改訂を行ない、活動展開しています。2018年3月に外部機関により2015年版ISO14001の移行認証を得ました。



環境マネジメントシステムのレベルアップ

【内部監査員資格の取得奨励】

マネジメントシステムの周知、教育の一環として、内部監査員資格の取得を奨励しています。2018年度は外部講師を招聘し、狭山・浜岡事業所で社内研修を実施して資格取得者の増員を図りました。

環境単年度計画

ここがポイント!

- ✓ 非生産部門のCO₂排出量の大幅低減を達成
- ✓ VOC発生源対策の継続的实施

2005年より、3か年の中期計画に基づき環境保全活動を展開してきましたが、2015年度からは事業計画と統合した活動とするため、単年度計画に切り換え、環境配慮型製品の売上高比率向上などに取り組んでいます。

2018年度環境目標と実績

重要課題	目標	2018年度実績	評価	
環境配慮製品売上高比率向上の推進	売上高比率 18.1%	売上高比率 16.9%	×	
地球温暖化防止の推進	(1) 粘着剤製品・特殊機能材製品	環境効率 ^{*1} 9.67	環境効率 9.35	×
	(2) 微粉体製品	環境効率 0.17	環境効率 0.19	○
	(3) 加工製品	環境効率 0.48	環境効率 0.43	×
	(4) 非生産部門	CO ₂ 排出量 2,038t	CO ₂ 排出量 1,973t	○
化学物質による汚染防止および環境リスクの低減	① 廃棄物量削減、再資源化対策の実施 ② 臭気・揮発性有機化合物(VOC)発生源対策の実施	● 溶剤回収の実施(狭山、浜岡) ● リンクドラム回収率向上(浜岡、狭山) ● 廃水を削減した製品の開発(狭山)	×	

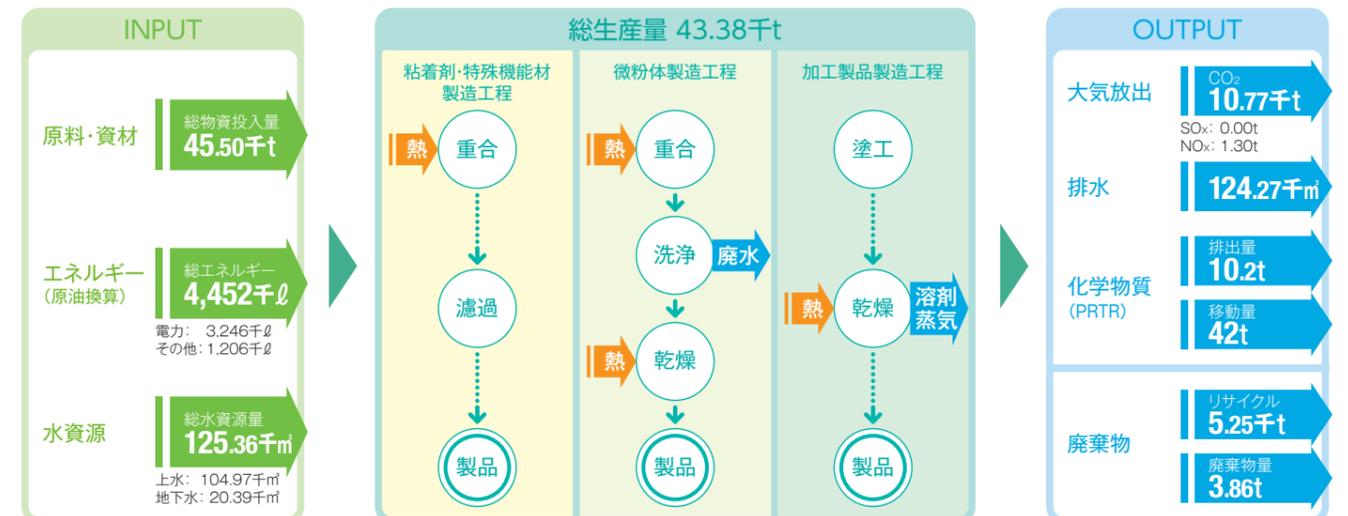
*1 環境効率: 当社グループの環境効率の指標 環境効率 = $\frac{\text{生産高} \cdots \text{グループ内生産量(単位 t)}}{\text{生産時の環境負荷} \cdots \text{CO}_2\text{排出量(単位 tCO}_2\text{)}}$

単年度計画において定めた重要課題3項目のうち「地球温暖化防止の推進」において、微粉体製品の環境効率は、生産量の増加などによりエネルギー使用効率が向上したことで目標を達成しました。また、非生産部門では開発部門での節電効果などにより、CO₂排出量を削減することができました。

これらの結果を踏まえ、2019年度は新たな目標を設定し、環境を意識した企業活動を展開していきます。

マテリアルフロー

当社グループの企業活動および生産活動のため投入したすべての原材料・エネルギー・水資源(INPUT)と、製品の生産量・排出物・リサイクル量など(OUTPUT)から環境に与える負荷を把握し、さらなる資源の有効活用に反映させることで、より効率的な生産活動へと結びつけていきます。



環境配慮型製品売上高比率向上の推進

ここがポイント!

- ✓ 生分解プラスチックをはじめとした次世代環境配慮型製品の技術開発を推進

製品の生産工程および使用時における環境負荷低減を企図した、環境配慮型製品^{※1}の開発と提供に取り組んでいます。2018年度は全製品中の売上高比率18.1%を目標に活動した結果、16.9%で僅かに目標には届きませんでした。

各製品の環境配慮方法例

粘着剤	SKダイン [®] (シロップタイプ・エマルジョンタイプなど)	溶剤不要のものや水に分散したするなど、有機溶剤使用量削減を実現します。
特殊機能材	トルエンフリーサーモラック、アクトフロー [®]	有機溶剤であるトルエンを含まない、または有機溶剤を一切使用しないので環境負荷を低減します。
微粉体	ケミスノー [®] (MP・MZシリーズ)	製造方法の改善により、生産時の水の使用量を削減しています。
加工製品	JETテープ [®]	無溶剤型の粘着剤を使用しているため、人体や環境への影響を抑えられます。
装置・システム	熱媒ヒーター	熱媒ヒーターの燃料にガスを使用し、CO ₂ 排出量を削減します。

環境配慮型製品売上高比率



☆有機溶剤とは

物質を溶かすために用いられる有機物の液体です。一般的に揮発性が高く、大量に放出されると大気汚染の原因となるほか、シックハウス症候群などの健康被害を引き起こす一因とされています。

将来に向けた取り組み

【研究開発センター】

「エコロジカルマテリアル」をキーワードに、将来に向けたさまざまな開発を進めています。天然材料(高分子)を用いた環境に負荷をかけない成型材料の開発や、天然由来の原料を用いた材料開発、それら特徴を活かした生分解性微粒子などの開発を推進しています。



【粘着・機能樹脂部】

近年、シックハウス症候群などの原因物質である揮発性有機化合物を除いた環境配慮型製品へのニーズが高まっています。綜研化学では、独自のポリマー重合・設計技術を用いて、建材・自動車用途に向けた無溶剤液状ポリマーアクトフロー[®]の開発・販売に力を入れており、環境配慮型製品の普及に努めています。

【NIP・加工製品部】

近年、自動車の燃費向上を目的に各種材料の軽量化が求められています。綜研化学では自動車用途向けに無溶剤テープのアクリルフォームを軽量化するなど、社会のニーズに応える環境配慮型製品の拡大に努めています。

※1 環境配慮型製品
地球温暖化防止、化学物質による汚染防止、環境リスク低減、資源循環、自然エネルギー・非枯渇資源の活用など地球環境の保全と社会の持続的発展に貢献する一連の製品群です。

地球温暖化防止の推進

ここがポイント!

- ✓ 水銀灯のLED化により消費電力量を削減
- ✓ 高効率機器導入により省エネを推進

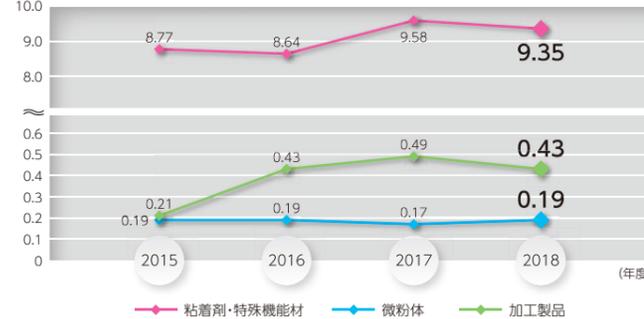
設備の運用管理や更新等により、CO₂排出量の削減など、地球温暖化防止活動を推進しています。評価指標として、生産部門では、製品分野ごとの環境効率(生産量/生産に関わるCO₂排出量)で、直接生産に関わらない非生産部門では、CO₂排出量で評価しています。

環境効率とCO₂排出量

各製品における環境効率は、微粉体製品が生産量の増加によって向上した反面、粘着剤製品・特殊機能材製品および加工製品では、当初予定の生産量に達しなかったため低下しました。また、非生産部門では、狭山事業所において開発部門の省エネ活動によりCO₂排出量が減少しました。

今後も設備稼働に関する見直しをするなど、環境効率向上とCO₂削減に積極的に取り組んでいきます。

環境効率(粘着剤・特殊機能材、微粉体、加工製品)



非生産部門のCO₂排出量



2018年度の取り組み事例(狭山事業所)

● A-7棟の水銀灯をLED化しました。これまでより電力消費量が抑えられ、CO₂排出量に換算すると10t/年の削減となる見込みです。



● 綜研化学(蘇州) 有限公司からの輸入品コンテナの容量を(20FEET → 40FEETに)大型化し、納入回数を少なくした事により輸送トラックのCO₂排出量を削減しました。



2018年度の取り組み事例(浜岡事業所)

● 老朽化、増設を見据えた高効率コンプレッサーへの更新を行いました。1m³(立方メートル)あたりの消費電力は6.08kWhから5.8kWhに低減し、年間電力使用量に換算すると133,249kWhから126,859kWhに削減され、CO₂排出量に換算すると3.1t/年の削減となります。



● 輸出する港を横浜港から清水港へ変更することで、事業所からの輸送距離を往復400kmから140kmへ短縮しました。これにより輸送トラックのCO₂排出量を9.0t/年、削減することができました。



化学物質による汚染防止および環境リスクの低減

ここが
ポイント!

- 外部コンサル活用による環境関連法規のチェック体制を強化
- 騒音計による敷地境界線での継続的な監視

国内の事業所では、周辺の環境も踏まえ安全な事業活動を継続するために、関連法規等の遵守はもちろんのこと、取り扱う化学物質を適切に管理することで、大気中への放出の抑制に努めています。また、事業活動に伴い発生する騒音、振動の抑制対策など、以下の環境リスク対策に取り組んでいます。

化学物質情報管理

化学物質規制に関し、ヨーロッパにおけるRoHS指令^{*1}、REACH^{*2}制定以降、化学物質に対する規制が国際的に強まっております。規制対象物質の増加とともに広範囲にわたり化学物質の使用状況に関する報告が要求されております。当社グループでは、法に基づく使用禁止物質の不使用はもとより、環境や人体への影響が懸念される物質の使用状況を的確に管理し、お客様からの要請に対しこれらの情報提供を行なっています。

^{*1} RoHS指令：欧州連合による、電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限についての指令のことをいいます。
^{*2} REACH：欧州における化学物質の登録、評価、認可、制限に関する規則。化学物質の用途や安全性などを登録する義務があり、有害性が非常に懸念される化学物質については、認可、制限の対象となります。

VOC (揮発性有機化合物)・臭気対策

生産工程などにおいて使用する有機溶剤や原料からのVOC放出による大気汚染を防ぐため、発生源の遮断、捕集・処理設備の設置などの対策を進めています。また、定期的に臭気測定を行ない、VOCを始めとする臭気の発生抑制にも努めています。

PRTR対象物質^{*3}

2018年度に取り扱ったPRTR対象物質は、排出量10.2t(前年度10.1t)、移動量42t(同60t)となりました。排出量は前年度並みでしたが、移動量は廃棄物としての移動量が減少したため、約30%の減少となりました。

^{*3} PRTR対象物質：PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)に基づき、排出量、移動量の届出が義務付けられた化学物質のことをいいます。

化学物質による汚染防止および環境リスク低減への取り組み



製品SDS (安全データシート) の提供

製品をお客様に安全にご使用いただくため、全製品のSDSを提供しています。今後の法令改正情報や、新たな危険・有害性情報を反映できるように情報管理を行なっています。

環境苦情 (総発生件数 0件)

2018年度は、環境に関する苦情はありませんでした。今後も近隣住民の皆さま、お客様、お取引先様、行政等と連携を取りながら環境保全活動に努めていきます。

環境関連法規管理説明会

綜研化学に適用される環境法規は多岐に渡り、また頻りに改正されることから、関係部門・部署でのチェック体制の強化は重要となります。そこで外部コンサルタントを活用し、現状の仕組みを見直し、再構築を行なうことで、環境法令のチェック体制の強化を図りました。そして関係部門・部署長および環境担当者に対して説明会を実施し、周知を行ないました。

騒音・振動対策

法的基準値以下の維持継続のため、騒音発生源の遮蔽による緩和、騒音発生作業の見直しなどを行なっています。2017年度に引き続き、狭山事業所北側の敷地境界線の騒音測定を実施し、基準値以下であることを確認しています。また、新規設備の導入や工事の実施前に環境影響評価を行ない、必要な予防措置を実施しています。

環境不適合^{*6}

(総発生件数 3件:本社0件、狭山事業所0件、浜岡事業所3件)

2018年度は、浜岡事業所にて環境に関する不適合が3件発生しました。いずれも担当部署において原因究明を行ない、再発防止に努めています。

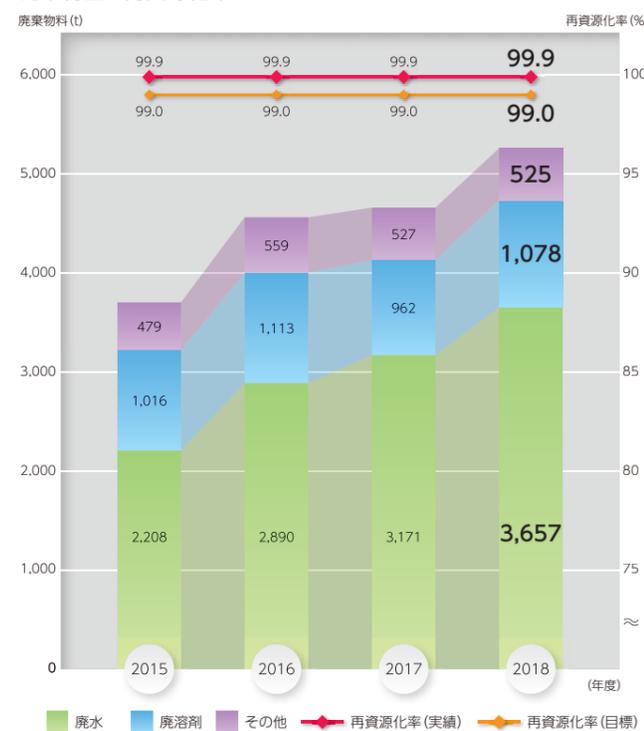
^{*6} 環境不適合：環境マネジメントシステムで定めたルールに適合できていない状態を指します。

廃棄物削減・資源循環の推進

2009年度にゼロエミッション^{*7}を達成しており、再資源化率は2010年度から99.9%を維持しています。廃棄物の総発生量は前年度比で約12%増加しました。総生産量の増加に伴い、粘着剤設備洗浄時に発生する廃液(有機溶剤)、微粉体生産時に発生する廃水の増加によるものです。

^{*7} ゼロエミッション：当社グループでは、「事業活動で生じた全廃棄物のうち、最終的に埋立処分となる廃棄物量を1%以下とすること」と定めています。

廃棄物量と再資源化率



中国環境法規制の動向に関する講演会

2018年9月に綜研化学(蘇州)有限公司において、外部講師をお招きして中国環境規制の最新動向とその対応に関する講演会が行なわれました。中国国内における環境規制は近年厳しさが増しており、常に最新の環境規制情報を把握し、適切な法令対応が求められます。本講演会では中国グループ会社(蘇州、寧波、南京)の環境担当者が出席し、最新情報の把握を行ないました。





取締役
浜岡事業所長
(元 狭山・浜岡事業所長)
泉浦 伸行

狭山事業所

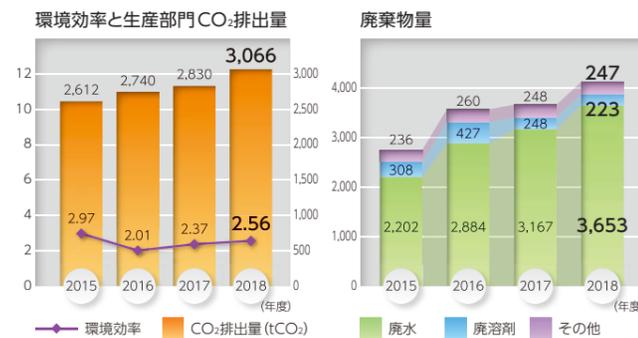
2018年度は猛暑への対応と老朽化していく設備等に代表される1年でした。昨夏は記録的猛暑により、冷却設備等では能力限界に迫る稼働を求められ、夏場の電力使用量が増加しています。また、設備機器の老朽化や過負荷などによる故障等も発生し、一部で操業にも影響がありました。住宅地に立地する事業所としましては、従業員に限らず近隣の皆さまにも安全安心して頂けることを心がけ操業しておりますが、昨今では地震や台風など自然災害への備えも強化しなければならなくなっております。

そのような中で、構内照明のLED化などの省エネルギー対策も進めてきましたが、水銀灯の早期更新など未だ残る課題に引き続き取り組んでいきます。



狭山事業所全景写真

- 事業所設置：1961年
- 敷地面積：28,795㎡
- 所在地：埼玉県狭山市広瀬東一丁目13番1号
- 主な事業内容：粘着剤、微粉体、特殊機能材、加工製品の製造



浜岡事業所

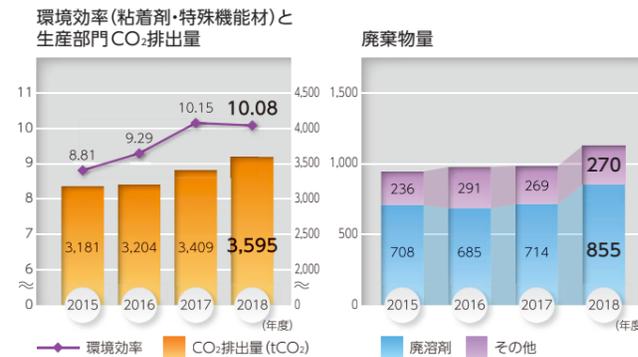
2018年度は好調な操業状態を継続する中で、台風24号によりこれまでの物的被害に加え深刻な停電被害も受けました。県内広域で発生した停電は、過去の経験を大きく超えた長時間におよび、従業員の生活にも大きな影響を与え、自然災害への対策の見直しを迫られました。これまでの安全対策に加え従業員の生活の安定にも注力する必要性を痛感させられました。この結果を踏まえ、停電を含めたさらなる災害対策を立案し、実行していきます。

一方、環境面では、一部に僅かながらも法基準値を満たしていないものがあることが確認されました。工業団地内に立地しているとはいえ、法遵守は企業としての重要な責務であり、有効な対策を検討、実施していきます。



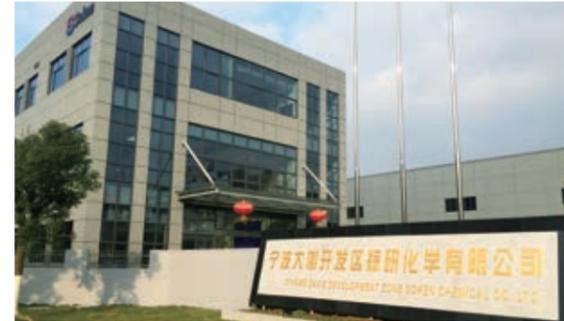
浜岡事業所全景写真

- 事業所設置：1992年
- 敷地面積：46,869㎡
- 所在地：静岡県御前崎市池新田8665番1号
- 主な事業内容：粘着剤、特殊機能材の製造



綜研化学グループのCSR活動についてご紹介します。

寧波綜研化学有限公司



VOCインライン監視システムを導入し、生産時に排出されたガスおよび工場内のVOC濃度を24時間監視しています。現在は、安定的に運用がなされ、監視している非メタン炭化水素およびトルエンに関するデータは全て法令基準値を下回っていることを確認しています。

綜研化学(蘇州)有限公司



2018年から始まった工業園区的环境管理パートナーシップ計画に参画しました。当社はこれまで取り組んできた産業廃棄物削減や



危険物倉庫の管理強化についての成果が評価され、「企業環境管理進歩賞」を受賞しました。今後も環境保全活動を推進、継続していきます。

綜研テクニクス

お客様に安全に熱媒体を使用していただくため、熱媒体の分析・再生サービスを展開しています。使用し続けることで発生した劣化物等の不純物を除去して再生することで、劣化した熱媒体による事故を未然に防ぐだけでなく、資源の有用活用を実現します。



綜研化学アジア株式会社

工場全体の消費電力削減を目的として、各工場建屋並びに新事務棟の照明を蛍光灯からLEDに変更しました。本取り組みは粘着テープ塗工エリアにおける製品への虫混入の防止策として有効であり、製品品質向上にも寄与しています。



綜研高新材料(南京)有限公司

RTO(蓄熱式脱臭装置)を導入し、VOC排出削減に取り組んでいます。VOC発生源に対して捕集効率を上げるため、配管系統の改造を行なった結果、捕集効率が大幅に上がり、VOC排出量を30%削減できました。これからも環境にやさしい工場作りに努めています。



盤錦遼河綜研化学有限公司 ※持分法適用関連会社

熱媒ボイラーと蒸気ボイラーを改造し、燃料をバイオマスに変更したことにより、熱効率が向上し、大気汚染を防ぐように努めています。また、生産だけでなく構内環境の整備など、5S活動への意識を高める環境保全勉強会を開催しました。

